

3 教育に関する学識経験者の意見

教育委員会が行った点検・評価の結果について、次の2名の学識経験者から意見及び助言をいただきました。

厚海 嘉孝 氏（元当別町立当別中学校長）

松山 和子 氏（江別市社会教育委員）

● 意見及び助言

第7次総合計画の取組状況を基に、本年度は、「子どもの教育の充実」に関する事業及び「生涯学習の充実」に関する事業について点検・評価を行いました。今回の評価の作業で、学校教育では小中一貫教育などについて力強く進めているほか、いじめや不登校の対策にいろいろな角度から取り組んでいること、また、生涯学習では家庭や高齢者、各種団体などへの多岐にわたった支援が展開されていることが分かりました。

小・中・高等学校と教育を受けられる期間の子どもをどう醸成していくかはとても大事なことです。昨今は核家族化や少子化、地域とのつながりの希薄化などの社会構造の変化によって家庭の教育力が低下していると指摘されておりますが、教育委員会が様々な事業に取組むことによって足りない部分を補っているのだと感じました。引き続き、学校や地域と一体となって、取組みを更に充実させていただきたいと思います。

教育行政を推進するためには、保護者や地域の方々との連携・協力が不可欠です。そのためには、江別市教育委員会の取組みを知ってもらうことが大変重要であると考えますので、様々な機会を通じて、より一層、わかりやすい情報発信に努められるよう期待いたします。

以下、それぞれの基本事業に着目しながら、意見等を申し上げます。

【子どもの教育の充実】

・ 遠距離通学送迎事業は、小中学校の統廃合により遠距離通学となった子どもたちの通学手段としてスクールバスやスクールタクシーを運行するものであり、通学が困難な子どもたちへの支援として必要だと思います。近年は、運転手不足などから貸切バスやタクシーの運賃が高騰していると聞いていますが、保護者の負担軽減のため維持していただきたいと思います。

また、公立・私立高校の機会均等と保護者負担の軽減を図る市内私立高校助成金や、ふるさと納税寄附金により教育環境の充実を図る市内高等学校教育助成事業についても、少子化により学校経営が厳しいなか、市内の高等学校の教育環境の充実のため、可能な限り支援を続けていただきたいと思います。

・ 地域一体型学校の顔づくり事業やコミュニティ・スクール事業は、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めるための重要な取組みだと思います。将来的には、小中一貫教育の観点からも学校運営委員会の合同開催や合同設置に進展していくのが望ましいと考えます。

- ・ 小中学校学習サポート事業において、学習サポート教員や学校支援地域ボランティアに対し交通費が支給されることになったのは大変良いことだと思います。

地域の人たちが学校に入っていくことは、子どもたちの成長や安心感にもつながる大事なことなので、いろいろな取組みを通じて、地域の人たちが子どもたちに関われる環境を整えていただきたいと思います。また、近年は、日本語を話せない外国籍の子どもが増えており、コミュニケーションに苦労していると聞いておりますので、日本語サポートボランティアの充実に努めていただきたいと思います。

小中学校外国語教育支援事業については、英語は外国人とコミュニケーションを取るための共通言語となりますので、ネイティブの英語を体験できることは大変価値があると思います。引き続き、英語教育の充実が図られ、外国人との相互理解が深まるることを期待します。

- ・ 小中一貫教育推進事業では、小中一貫教育全国サミットの旅費が継続して措置され、教職員が意欲的に取組む土台を作っていることは大変素晴らしいと思います。

少子化で兄弟やいとこがいない子どもが増えているなか、小中一貫教育により学年を超えたつながりができるることはとても大切なことになっていくと思います。小中一貫教育の取組みが更に広がり、年の離れた子どもたちの交流が増え、相手を思いやる気持ちや尊敬する気持ちが醸成されることを期待します。

- ・ 不登校児童生徒支援事業では、不登校の子どもたちのなかには、朝が起きられず、早い時間に登校できない子どもも多いので、教育支援センター「ねくすと」が開設され、午後からも不登校児童生徒の受け入れができるようになったのは大変良いことだと思います。

一方、「ねくすと」は江別市内に1カ所しかなく、「ねくすと」に通うのが難しい子どももいますので、各学校に校内登校支援室を設置し、不登校の子どもたちが学校に通いやすい環境を作っていくことは大事なことだと思います。登校サポーターの活用などにより校内登校支援室の環境が充実されるよう努めていただきたいと思います。

- ・ 子どもたちが抱える問題が複雑化・多様化するなか、スクールソーシャルワーカーを1名増員したことは大変良いことだと思います。相談件数も増えており、それだけ一人の子どもに対して手厚く支援していただいているのだと思いました。

重たい課題を抱えている子どもたちにとって、誰に相談した方が良いのか判断するのはとても難しく、第三者の方が日常のいろいろな疑問や不安、困っていることなどを訴えやすいと思います。スクールソーシャルワーカーは中立な立場で相談がしやすい有意義な制度ですので、これからも継続して取組んでいただきたいと思います。

- ・ いじめ防止対策事業では、いじめにあっていても親や先生に相談できず、助けを求められない子どももいると思いますので、ダイレクトメールで顔を見られず、時間も縛られずに伝えたいことを伝えられることは大変良い取組みだと思います。

引き続き、タブレットなどを活用して子どもが発信しやすい環境をつくり、子どもた

ちの悩みを掬い上げるような支援を続けていただきたいと思います。

【生涯学習の充実】

- ・ 公民館やコミュニティセンターでは、コロナ禍で減少した利用者が回復傾向であること、また、旧町村農場がリニューアルオープンにより過去最高の入場者数になったと伺い、喜ばしいこと思います。一方で、公民館等の備品が粗末に扱われているケースが一部見受けられますので、適切に使用するよう利用者に啓発してほしいと思います。
- ・ 江別市子ども育成会連絡協議会や青少年のための市民会議は、江別市の青少年の健全育成において非常に大きな役割を果たしており、支援を継続することが望ましいと思います。これらの団体が実施している体験活動やイベントは毎年参加者が多く、普段、家庭では出来ないような経験を積むほか、社会の問題を意識するきっかけとなるものですので、活動を通じて青少年の自主性や協調性、社会性などを育み、人間形成が向上することを期待します。
- ・ 地域体験活動事業や科学体験教室開催事業、青少年キャンプ村事業、江別の魅力「食」と「自然」を満喫できる体験型学習事業では、様々なイベントや行事を通じて、感性や意欲、忍耐力、協調性などを、楽しみながら身につけることができる体験学習を行っており、これからも充実した取組みを続けてほしいと思います。はじめてのおとまり会では、小さい頃に公民館に泊まる体験をすることが、将来、大きな災害があって避難所生活をする際に活かされることもあると思いますし、また、昨今は仮想現実による体験として頭の中では理解しても、実際の体験は不足している子どもが増えているので、科学体験教室で実際に体験できるものが用意されているのはとても良い環境だと思います。

はたちのつどいについても、新成人が自ら実行委員となって企画や運営を行う取組みは素晴らしいと思いますので、是非、継続していただきたいと思います。

- ・ 蒼樹大学事業やえべつ市民カレッジ（四大学等連携生涯学習講座）事業では、高齢者を中心に非常に多くの方が参加していただいているとお伺いしました。大人になったときに学び足りない部分を学ぶ場が用意されているのはとても良いことだと思いますので、これからも充実した取組みを続けてほしいと思います。
- ・ 青少年ふれあい交流促進事業や社会教育団体支援事業、家庭教育支援事業では、それぞれの団体が、多様なイベントや行事を通じて、青少年の健全育成や世代間交流、生涯学習の推進、家庭教育の支援などに多大な貢献をしており、本事業はそれらの団体等の負担軽減につながっていると考えられますので、継続していただきたいと思います。

一方、青少年ふれあい交流促進事業の補助を受けていない学校でも様々な活動をしているものと思われます。補助を受けることにより取組みを拡充できる余地がありますので、積極的な周知をお願いします。また、家庭の教育力が低下していると言われているなか、えべ育講演会は貴重な講話を聞けるせっかくの機会であり、より多くの人に参加していただきたいと思いますので、同様に積極的にPRしていただきたいと思います。